

奈良 勲，鎌倉矩子(シリーズ監修)
梶原博毅，横井豊治(編)

《標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野》
「病理学 第3版」

内山 靖
(名古屋大学医学部保健学科教授)

●なぜ PT・OT が病理学を学ぶのか、どこまで学ば
よいか

2009 年 2 月に，標準理学療法学・作業療法学シ
リーズ専門基礎分野『病理学』第 3 版が発行されまし
た。初版が発行された 2000 年から 6 刷を経て，2003 年
に第 2 版が発行されています。その後も順調に 5 刷を重
ね，今般，一層成熟した内容として第 3 版が発行され
るに至りました。

病理学は，疾病の原因と病態発生についての学問で，
医師にとって極めて重要な領域です。かつて，臨床系
教授が定年になる時期を迎えると，「〇〇教授の誤診率
は△△%でした」という記事や話題を耳にするほど，
病理学的な診断を基準として臨床能力の一側面を評価
しようとする風潮があったほどです。医学教育モデル
・コアカリキュラムには，大項目である医学一般の
原因と病態として，遺伝子異常と疾患・発生発達異常，
細胞障害・変性と細胞死，代謝障害，循環障害，炎症
と創傷治癒，腫瘍が挙げられています。また，その後
の大項目の病態，診断，治療においても病理学の重要
性が示されています。

理学療法士，作業療法士は，医療専門職として病理
学が重要であることに変わりはありません。他方，医
師養成の教育課程と比べて修業年限が異なることや，
社会行動学的な知識や技術の修得が期待される中で，
膨大な学問体系である病理学において必要な項目を適

切に抽出することは教育者にとって重要な役割となり
ます。本編集に当たられた梶原先生と横井先生は，共
に理学療法士，作業療法士の教育に直接携わられた経
験と情熱とを活かされ，医師用のテキストを網羅的に
簡素化することとどまることなく，理学療法士，作業療
法士が真に必要な項目を厳選した良質な内容となってい
ます。

総論と各論とに大別された各章の構成は初版から変
更されることなく，各項目には新しい知見が取り込ま
れています。このような改版は，確立した学問として
の一貫性と常に進歩する要素を取り込む調和と風格を
感じさせます。また，科学技術の進歩とはいえ，図表
や配色を含めた製作過程の進歩は読者のわかりやすさ
を高める仕上がりになっています。

各章の終わりには，理学・作業療法との関連事項が
記載されています。教員にとって，入学後早期に履修
する共通教育や専門基礎分野を学ぶ意味を提示するこ
とは重要な役割です。なぜ，病理学を学ぶのか，病理
学を知ることによって理学療法，作業療法の何が変
わるのかをさらに具体的に提示することは，専門基礎教
育と専門教育を担当する教員の共通した課題といえま
す。

マニュアルやガイドラインが重用される時代であれ
ばこそ，医療専門職の臨床思考過程(Gedankengang)の
中核である現象から原因を同定・究明し，対象者の
ニーズに応じた現実的な治療・介入を行う問題解決能
力の涵養が不可欠です。違いのわかる理学療法士，作
業療法士をめざす皆様に，特にお勧めしたい 1 冊で
す。

●B5 判 320 頁
定価 4,830 円(本体 4,600 円+税 5%)
2009 年 医学書院・刊